

病院長挨拶



スタート地点に立つ

新小山市民病院は、独法化して2年が過ぎ、平成28年1月には新病院に移転すべく順調に計画が進んでいます。現在は平成23年度と比較して、病院職員数は、365人から525人と大幅に増えました。医師数については、34人から45人に増員しています。いくつかの診療科が再開もしくは新設され、本院に自治医科大学の地域医療教育センターも開設されました。眼科手術の再開などもあり、年間の手術件数は、1664件から2271件へと倍増しています。経営面では、独法化初年度に、はじめての黒字化を達成しましたが、2年目も医業収益はさらに伸びています。また、地域医療機関との連携においても、中核病院の役割である「紹介型外来診療」が進み、このほど県からも「地域医療支援病院」の承認を受けることができました。これらは全て、本院を支えて下さる市民・患者の皆様、地域医療機関の皆様のご協力の賜物と深く感謝しています。

さて、市民の皆様が、市民病院に期待なさっていることは、現在の病院よりも、もっと高いレベルであると自覚しています。未だ職員の患者サービスの意識が隅々まで浸透しているとは言えないと心得ています。各疾患の診療のレベルや件数も、大学病院と適切に役割分担できているとはいえません。現在の到達点は、やっとスタート地点に立ったところであると考えています。ともあれ短期間でここまで来れたことは自分たちの自信につながります。今年度は、さらにもっといい病院にしようと、“不転の決意”で臨む覚悟です。不転とは、『常に課題を見つけ出す努力を怠らず、現れた課題を直視し、それを解決するためには、今までのやりかたには全く拘らず、あらゆる方法を試みる』ことだと考えています。その一段階として、このほど本院は日本医療機能評価機構の審査を受けました。これは、病院が組織全体として、その使命を明確に自覚し、安全で信頼できる医療、患者本位の診療を展開しているかを第三者が評価調査するものです。この評価を受審する過程で、職員は、あらためて病院とは本来どうあるべきかを学びました。また審査に合格するという共通の目標を持って互いに力を合わせて作業する経験を通じて、職員同士の一体感が強まりました。

新市民病院は、皆様に愛され、信頼される病院となるよう頑張ります。

平成27年6月

新小山市民病院 理事長・病院長

島田 和幸



お薬の飲み方 ワンポイントレッスン

医療技術部 薬剤部門 薬剤師 川上 啓子



お薬は、決められた量を正しくのんで初めて効果が現れます。お薬の袋に、食後、食前などののみ方が、書かれてありますが、これは、薬の効果や生活習慣にあわせて決められてあります。

A. 食後30分 → 大部分のお薬がこののみ方です。

食事をして30分ぐらいまでにのんで下さい。面倒でしたら、食事をしてすぐのんでも結構です。

B. 食前30分 → 食事の30分ぐらい前にのんで下さい。

薬：下痢止め、吐き気止め、漢方薬や食物により吸収が悪くなるお薬などです。

※注意！食前にのみ忘れたら食後でも結構です。

C. 食直前 → 食事をすする直前にのんで下さい。

薬：糖尿病の薬でごはん・パン等の食べ物と混ぜり合って効く薬(グルコバイ、ベイスン)

※注意！食直前に忘れたら、食事の途中にのんで下さい。

D. 食後2時間(食間) → 食事と食事の間

おなかのすいているときのみます。

薬：漢方薬(吸収を良くする)、胃薬など

E. 時間毎 → 指定された間隔でのんで下さい。

薬：抗生物質や喘息の薬など、体内で一定の濃度を保っておいたほうが良いもの

F. ねる前 → 床につくおおよそ30分前にのみます。

薬：便秘薬、催眠剤、夜間の発作を予防する薬など

※注意！横になったまま薬をのんではいけません。薬が胃までおちないことがあります。

G. 頓服薬 → 症状を一時的に改善する薬です。

痛いとき、眠れないときなどその症状がでた時にのんで下さい。通常医師がのみ方を指示しますので、良く守っておのみ下さい。





血管のアンチエイジング

30歳を過ぎたら人間ドックを受けましょう



健診センター

2015年4月、厚生労働省は1日の食塩摂取の目標値を18歳以上の男性で9gから8gに、女性で7.5gから7g未満に基準を改定しました。これまでの「減塩」から「より減塩」へシフトし、塩分摂取過剰がもたらす心血管疾患やがん、骨粗鬆症などへの危機を示唆しています。30歳を過ぎる頃より、食生活やライフスタイルの変化から生活習慣病が発症しやすく、40歳以降は急激に生活習慣病やがんの罹患率が増加します。30歳を過ぎたらより詳しく多項目検査の人間ドックを受診しましょう。

当健診センターは、“血管のアンチエイジング”をテーマに脂質異常や塩分摂取過多によって起こる動脈硬化に関連した様々な取り組みをしています。血管の硬さや詰まりの程度を測定する「**血圧脈波検査 (PWV)**」や被曝せずに測定可能な「**超音波内臓脂肪測定検査**」を標準検査に導入しています。また、超音波で測定する骨密度検査、四肢の筋肉量や荷重バランス、皮下脂肪量を測定する「**体組成測定検査**」や血液検査で胃がんのリスクを知る「**ABC検査**」など各種オプション検査があります。

昼食は、小山の地産地食材を取り入れ“**減塩でも美味しい食事**”をコンセプトに、動脈硬化予防+減塩を組み合わせたメニュー『**おやまの恵みダッシュ御膳**』を管理栄養士と開発し提供しています。当健診センター人間ドックでは、当日結果説明、健康セミナー・栄養保健指導や食生活改善相談・健康相談などをおこなっていますので、是非受診して下さい。

患者サービス向上委員会よりご報告！

患者満足度調査について

当院では、入院した患者さんには全員、外来の患者さんには年1回2日にわたって、患者満足度調査を実施しています。今回は、その結果をまとめてご報告します。

①**入院患者**満足度調査…約6000人にアンケートをお配りし、回答は約3000人(回答率50%)でした。



医師・看護師・技師・事務職員等については、「満足」「ほぼ満足」を合わせると**85%**を超えています。しかし、説明の項目でやや低い満足度となっています。患者さんに分かりやすい言葉で、納得していただけるような説明や対応をしていくことが今後の課題です。いただいた結果をまとめ、職員に公表しています。各部署では、その結果をもとに、医師・看護師等関係職種が毎月話し合いを持ち、改善に努めています。

②**外来患者**満足度調査…2日間の来院患者さんは1195人で回収は464人(回収率38.8%)でした。



お忙しい中、ご回答いただきありがとうございました。医師については、説明に関しての不満のご意見があり、看護師や事務職員には、待ち時間の配慮が足りないのご意見が多くありました。駐車場については、前回よりスムーズに駐車できたという回答が増えました。待ち時間については、前回より待ち時間は改善されているという結果が出ています。平成26年度の結果は、総合受付隣のラウンジに掲載していますので、機会があればぜひご覧ください。

いただいたご意見を真摯に受け止め、それぞれ改善を図り、患者さん・ご家族から満足していただける病院づくりをしていきたいと思っております。